

# 青梅市文化財ニュース

第 7 2 号

平成 5 年 1 0 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

平成 4 年 11 月から続けられていた、「駒木野遺跡」の発掘調査がほぼ終わりに近づき、その全貌が明らかになる日が近づいて参りました。

この発掘調査は、青梅簡易保養センターの老朽化に伴い、改築を行うため、その地域の発掘調査を行っていたもので、調査面積は、約 4012 m<sup>2</sup>、今からおよそ 4000 年くらい前の縄文土時代中期の遺跡が主なものとなっています。

今回は、この調査によって明らかになった主なことを紹介してみます。

## ◎ 住居跡

37 軒確認されました。これら住居跡のうち、同時代と思われるものをたどってゆくと、直径 50m 程の環状または馬蹄形に配置されたと思われるものも確認されています。

## ◎ 土坑群

馬蹄形に配置された住居跡の内側に主として配置されています。食物貯蔵するための穴や墓穴等が考えられます。

## ◎ 配石・集石遺構

調査区域の東側に集中し、大小の石のまとまったものが、総体的に見て、環状に配列された、ものと、単独で、長径 150cm 前後に組まれた集積遺構が発見されています。

## ◎ 土器類

復元可能なもの 60 個体を含むかけら類が収納箱(4 万点)分出土しました。これらのものは、縄文時代の中でも紋様の華やかな時代の、勝坂式から加曾利 E 式土器を主体に、阿玉台式、後期の称名寺式も 2 点出ており、高さ 10cm 程で完形の小さな土器(ミニチュア土器)も 20 点発見されています。

## ◎ 石器類

石斧の類では、打製石斧がおおよそ 200 点、磨製石斧がおおよそ 20 点見つかり、その中には、例の少ない、チャートという硬い石を磨いて作られたものが 1 点あります。また、平らな大きな石を使っての石皿、チャートや黒曜石で作られた鍬(やじり)、石のおもり、そして、当時、儀礼的なものとして祀られたものであろうとされる石棒などが見つかっています。

また、今回の調査で特殊ものとして採り上げられるものに、住居跡にある囲炉裏の灰の中から出土したパン状炭水化物があげられます。これは、アク抜きをしたドングリ類を石皿等ですりつぶし、パン状にしたものを焼いたものです。

以上、ほぼ一年間にわたる発掘調査も終了に近づき、市内の多くの方々にお手伝いをいただき、このような成果をあげることができました。これらのことから市内の考古学における歴史の一步が確たるものになったことをここにお知らせ致します。

(文責 鈴木晴也)